第八講・説明的文章④

一題目　次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

古いお寺や神社などの修理につかえるような大きな木を「大径木」といいます。法隆寺には樹齢数百年、千年以上の①ヒノキが多くつかわれていますが、②そんな大きなヒノキは、日本にはもうないのです。

伝統的な木造建築物の木材としては、強くて美しいヒノキがつかわれています。

お寺に行って、建物の外側につきでた屋根の裏側を下から見ると、何本も太い木が並んでいるのが見えます。それが屋根をささえている「垂木」といわれる木材です。

③法隆寺の解体修理のときに、屋根の瓦をとると、その垂木がもとにもどるようにはねかえったというのです。それまで何百年も重い屋根瓦を背負っていたにもかかわらず、ピンと背筋を伸ばすように、まるで生きているようにはねかえるのです。それほど、ヒノキは強く、しなやかな木なのです。

丈夫で強い木でありながら、加工がしやすいやわらかさをもっている。しかも、仏像にもつかわれるほど木の肌が美しく、香りもよい。ヒノキは建築材の王様といってもいいくらいなのです。

でも、そのヒノキがない。建築材としてつかえる大径木がない。いまの日本では、樹齢五百年以上のヒノキはほとんど伐りつくされてしまっているのです。あったとしても神社の御神木や、鎮守の森になっていたら、天然記念物に指定されていて、材として伐採できません。

二十年ほどまえにおこなわれた奈良・薬師寺の修理では、台湾から輸入したヒノキがつかわれました。でも、その台湾でも、森林保護のため、輸出が禁止

©RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

されるようになりました。

④ないのは、建物につかわれるヒノキだけではありません。

たとえば、法隆寺の金堂修正会には「厳祈」といわれる行があります。漆の棒で、金堂の柱とか畳をたたいてまわるのです。まわりは国宝の仏像だらけだから、ちょっと心配になるくらい、激しくたたいていくのです。その行には、伝統として漆の木が必要です。ところが、むかしからつかわれてきた漆の木が、なかなか手に入らないのです。

それから、法隆寺には「鬼追式」とか「追儺式」といわれる、鬼を追い払う儀式があります。このときつかわれる松明は、赤松の根っこの「ジンタ」といわれる部分でつくります。その「ジンタ」がとれる大径木がもうほとんどないのです。

こんな伝統行事につかう木に苦労しているのは、法隆寺だけではありません。全国の神社仏閣が、いうにいわれぬ苦労をしているはずです。これは、日本の伝統文化の危機ともいえるのです。

法隆寺の修理のひとつとっても、昭和の大修理はなんとか終えることができましたが、では、三百年後か四百年後にやってくる大修理のときはどうするのだろう？　つかえる大径木のヒノキ材が日本にもない、輸入もできないとなったら、いったいどうしたら……。

そんな心配がぼくの頭のなかでもつのっていました。

あれは、金堂修正会でのお手伝いをするようになって、七年目のときです。いつものように底冷えのする金堂の片隅で、お坊さんたちといっしょに声明をとなえていて、はたと思ったのです。

「⑤いまから植えれば、まにあうじゃないか……四百年後につかえる木が育つじゃないか」

お祈りをしているときは、本当は無心でないといけないのです。なにも考えず、ただひたすら声明を唱えるのがお祈りなのですが、ぼくの頭のなかでは「古事の森」のイメージがどんどん広がっていたのです。

（立松和平『古事の森』）

©RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

問一　――線①「ヒノキ」の建築材としての長所として文中で挙げられていることを次のうちからすべて選び、記号で答えなさい。

ア　手に入りやすいこと
イ　美しいこと
ウ　加工しやすいこと
エ　安いこと
オ　強いこと
カ　燃えにくいこと
キ　香りがよいこと
ク　ゆがみにくいこと

問二　――線②「そんな大きなヒノキは、日本にはもうないのです」とありますが、それはなぜですか。最もよいものを次のうちから選び、記号で答えなさい。

ア　ヒノキはそんなに大きく成長できないから。
イ　ヒノキの育つような自然環境が失われたから。
ウ　ほとんど伐りつくされてしまったから。
エ　輸入されたヒノキに負けてしまったから。

問三　――線③「法隆寺の……はねかえったというのです」とありますが、この事実から筆者はどんなことを述べようとしていますか。二十字以内で書きなさい。

©RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

問四　――線④「ないのは……ヒノキだけではありません」とありますが、ほかにたとえば何がないのですか。次の〔　〕にあてはまることばを、文中からそれぞれ答えなさい。

・「厳祈」で伝統的に使われてきた〔　　〕

・〔　　〕がとれる赤松の大径木

問五　――線⑤「いまから植えれば、まにあう」とありますが、何にまにあうのですか。文中から十八字で書きぬきなさい。

問六　この文章の段落（だんらく）構成について、次の(1)・(2)に答えなさい。

(1)　この文章を内容から三つに分けるとすると、二つめと三つめはどこから始まりますか。それぞれ初めの七字を書きぬきなさい。

二つめ

三つめ

(2)　(1)で分けた三つのまとまりの内容を次のうちから選び、それぞれ記号で答えなさい。

ア　ヒノキは建築材の王様

イ　伝統文化の危機

ウ　つかえる木とつかえない木

エ　心にめばえた「古事の森」

オ　暗いヒノキの未来

一つめ　　二つめ　　三つめ

©RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

二題目　次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。（1～14は段落（だんらく）番号を表します。）

1　最初に「古事の森」の話を西堀（＊にしぼり）さんにしたのは、二〇〇一年の十月ころです。その三か月後には、候補地（こうほち）として京都の鞍馬山（くらまやま）国有林が決まり、二〇〇二年の春には、植林することになった。まさにトントン拍子（ひょうし）でした。

2　いい森をつくりたい。未来にたいせつな森を残していきたい。その思いは林野庁（りんやちょう）の人たちも同じだったのです。

3　古いお寺や神社のなかには、もともと、自分で山林をもっているところもあります。伊勢神宮（いせじんぐう）は、二十年に一度、「遷宮（せんぐう）」といって、社殿（しゃでん）を新築（しんちく）してご神体（しんたい）をうつします。そのために必要なヒノキの森は、伊勢神宮が自ら育て、守っています。でも、全国のすべてのお寺や神社が、山林をもてるわけではありません。

4　それに、「適地適木」といって、その木が育つのにふさわしい土地があります。

5　法隆寺（ほうりゅうじ）も、裏山（うらやま）に植林はしています。けれども、土地の性質からいって、どんなに育っても九十年ほどだそうです。法隆寺の大修理（だいしゅうり）につかえるような、樹齢（じゅれい）数百年以上のヒノキは、そこでは育たないのです。

6　四百年もヒノキを育てるとしたら、やはり、①国有林がいいということになります。②民有林にはどうしても個人の事情が生じやすい。日本には七六〇万ヘクタールもの国有林があるのです。全部あわせたら国土の二割（にわり）にもなります。

7　日本中にある国有林のなかから、その木にあった山を探（さが）すことができます。四百年のあいだ、「不伐（ふばつ）の森」にすることも、国が太鼓判（たいこばん）をおしてくれるというわけです。

8　木を苗木（なえぎ）から育てるには、いろいろな手入れもしなければなりません。

9　根にじゅうぶんな栄養をいきわたらせるために、まわりの雑草などを刈（か）る「下刈り」をしなけ

©RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

ればなりません。夏の暑い時期にやる作業です。

10 樹齢が十年をすぎるころになると、下のほうの枝を切る「枝打ち」もしなければなりません。余分な枝を切ると、木材としてつかうときの材質がよくなるのです。ヒノキは十年おきに二、三回くりかえされます。

11 木がもっと大きくなると、となりどうしの木のあいだがきゅうくつになってきます。そのままにしておくと、枝と枝が重なりあって、うまく成長できない木がでてきます。

12 日差しが地面にあたらなくなるので、暗く、草もはえてきません。そうなると、森が荒れてしまうのです。それを防ぐためにおこなうのが「間伐」です。伐ってもいい木を選んで本数を減らすのです。

13 苗木を元気に大きく育て、建築材として立派な柱にもつかえるようにするためには、③植えたあとの管理もたいせつな仕事なのです。その管理を四百年ものあいだ、きちんとやっていくには、民間の人たちがもっている民有林より、やはり国有林がいいにちがいありません。

14 代々受けつがれてきた木造建築物と、その建物のなかではぐくまれてきた精神や思想。それを、さらにつぎの世代の日本人に伝えるために、「四百年不伐の森」として育てていく。この「古事の森」の話に賛成してくれた二百人ちかい人たちが、京都の④鞍馬山での植樹に、朝早くから集まってくれたというわけです。

（立松和平『古事の森』）

＊西堀さん＝筆者の友人で、国有林（＝国が保護・管理する森林）を管理する林野庁の役人。

©RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

問一　次の(1)〜(3)は、――線①「国有林」と②「民有林」のどちらにあてはまりますか。それぞれ番号で答えなさい。

(1)　ある木に対する適地を探しやすい。
(2)　個人の事情に左右されやすい。
(3)　長い期間の管理がしやすい。

(1)□　(2)□　(3)□

問二　――線③「植えたあとの管理」に必要な、次の(1)〜(3)のことがらの説明として最もよいものをあとから選び、それぞれ記号で答えなさい。

(1)　枝打ち　(2)　間伐　(3)　下刈り

ア　下のほうの余分な枝を切る。
イ　まわりの雑草などを刈る。
ウ　木のあいだがきゅうくつになってきたときに、数を減らす。

(1)□　(2)□　(3)□

問三　――線④「鞍馬山での植樹」とありますが、古事の森をつくる場所として鞍馬山が選ばれたのは、どんな条件に合っていたからですか。その条件の内容を、「ヒノキ」ということばを使って十八字以内で書きなさい。

□□□□□□□□□□□□□□□□□□

問四　次の(1)〜(8)は、どの段落の要点をまとめたものですか。それぞれ段落番号で答えなさい。

(1)　植林のあと管理していくにも、国有林のほうがよい。
(2)　いい森をつくりたいという思いは林野庁の人も同じ。
(3)　法隆寺の裏山では、ヒノキは九十年ほどしか育たない。
(4)　木が成長して枝が重なりあうと、うまく成長できなくなる。

©RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

(5) トントン拍子に進んだ「古事の森」。

(6) すべての寺社が伊勢神宮のように自分で山林をもてるわけではない。

(7) 歴史ある木造建築物とその精神をつぎの世代に伝えるための「古事の森」。

(8) 木には、育つのにふさわしい土地がある。

(1)	(5)
(2)	(6)
(3)	(7)
(4)	(8)

©RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

第八講　説明的文章④

一題目

問一　イ・ウ・オ・キ（順不同）

問二　ウ

問三　(例)ヒノキは強く、しなやかな木であること。

問四　漆の木・ジンタ

問五　三百年後か四百年後にやってくる大修理

問六　(1)　〈二つめ〉でも、そのヒノ

〈三つめ〉法隆寺の修理の

(2)　〈一つめ〉ア

〈二つめ〉イ

〈三つめ〉エ

二題目

問一　(1)　①　(2)　②　(3)　①

問二　(1)　ア　(2)　ウ　(3)　イ

問三　(例)ヒノキが四百年育つ土地であること。

問四　(1)　13　(2)　2　(3)　5　(4)　11　(5)　1　(6)　3　(7)　14　(8)　4

問五　ア

Ⓒ RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。